を目測して手動で発電量を示すシステムを導入している。これはNPO時代から使用している独自キャラクター「さんぽちゃん」が点灯するもので、子どもたちの間では、お天気とさんぽちゃんの点灯状況が間違っていないか確認する行動も見られる。

また、子どもたちには10の節電の知恵を記載した「さんぽちゃんシール」を配布しており、家庭での省エネルギー行動の普及を啓発している。

発電状況を示す屋内の発電状況表示システムは点灯、消灯が手動式になっており、器材のコスト削減のほか、デジタル表示器を頻繁に確認する必要性があるため啓発効果が高い。

（4）省エネルギー発電所（ESCO事業）

省エネ機器を自主的に設備投資できない商店街などの中小企業層を対象として、ESCO事業を展開している。

契約は100件を目指しているが、現在7、80件と伸び悩んでいる。特に後継者のいない商店では、10年間の契約ができないという理由で、断られるケースも出てきている。市民出資の契約に際して100件を掲げているため、契約件数は多すぎれば事業費が捻出できなくなり、少なすぎれば契約違反となりかねない。

なお、このようなコミュニティビジネス的なESCO事業であっても、光熱費が合計で300万円以上規模の施設でないと、採算ベースに達しないのではないかということが明らかになってきている。

ESCO診断を通じて、契約すると太陽光発電パネルが設置されると期待している事業者が多いことがわかった。そのため、契約期間を長くするなどして、太陽光発電施設の設置も組み合わせることのできるオプションメニューの開発も検討している。

（5）今後の展望

市内には落差も多いことから小水力発電は取り組みたいとは考えるが、具体的な検討にまでは至っていない。

一方、市内にペレット生産事業が立ち上がったものの、需要が少なすぎるので、ペレットストーブやボイラなどの導入を進める市民出資などの展開も考えている。